

市政記者クラブ 様

令和7年5月9日（金）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）楫屋、近藤 電話：972-2631
（結核）竹田、原田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和7年4月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 4月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年4月	令和6年4月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	27件	24件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	2件	3件
◆四類感染症 ・E型肝炎 ・レジオネラ症	2件 4件	0件 4件
◆五類感染症（全数把握疾病）		
・ウイルス性肝炎	1件	0件
・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件	5件
・急性脳炎	1件	2件
・劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	7件
・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	2件	5件
・侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件	2件
・侵襲性肺炎球菌感染症	6件	11件
・播種性クリプトコックス症	1件	0件
・梅毒	51件	31件
・百日咳	68件	1件
・麻しん	1件	0件
◆五類感染症（定点把握疾病：第14週～第17週（3月31日～4月27日分））		
・4月7日から、五類感染症の定点把握疾病の区分が変わり、急性呼吸器感染症（ARI）が規定されました。これにより、流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握や、新たな感染症の発生を迅速に探知することを目的としています。		

2 トピックス

《百日咳 ～ 4月に入って急増中です。咳エチケットと予防接種で予防を！生後2か月からの定期接種で効果的な予防対策を》

○百日咳について

百日咳菌によって起こる感染症で、ヒトからヒトへの飛沫感染の経路で感染します。新生児やワクチン未接種の乳児が感染すると重症化しやすく、重篤な無呼吸の症状（チアノーゼ）、肺炎や、脳症などを起こすこともあります。

百日咳に感染すると約7～10日間の潜伏期間を経てかぜ様症状で始まり、次第に咳が激しくなり百日咳特有の咳が出始めます。典型的な症状としては、①顔を真っ赤にしてコンコンと激しく咳き込み、②最後にヒューッと音を立てて大きく息を吸う発作が現れます。年齢が大きくなるにつれて典型的な症状が見られず、診断がむずかしくなることもあり、このために「ただの風邪」と見逃されることも見られます。

○令和7年（1～4月）百日咳の発生報告状況

1.月別報告数

(人)

1月	2月	3月	4月	令和7年計
2	9	21	68	100

2.年齢階層別報告数

(人)

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
22	46	9	5	10	6	1	1	100

今年に入って増加傾向であり、4月で急増している状況です。ワクチン免疫が減弱した大人の方が家庭内での感染に関わる場合も見られます。咳が続く場合には、早めの受診を心がけ、手洗い、マスクはもとより咳エチケットにも気をつけて感染防止に努めましょう。

○予防接種について

百日咳の予防には予防接種が効果的です。生後2か月になったら早めに接種して感染を防ぎましょう。定期予防接種として、百日咳ワクチンを含む四種混合ワクチンまたは、五種混合ワクチンが使われています。接種間隔に気をつけて忘れずに接種をしましょう。

定期予防接種について

初回接種	3週以上の間隔をおいて、3回接種
追加接種	初回接種終了後、6か月以上あけて接種

病原体分離情報（令和 7 年 4 月分）

1. 令和 7 年 3 月 8 日発症、その後市内医療機関を受診し、急性呼吸不全と診断された、千種区在住、15 歳、女児の検体（咽頭拭い液：3 月 11 日採取）から、かぜ症状、気管支炎、肺炎等呼吸器感染症を引き起こすことが知られている C 群ヒトライノウイルス（HRV-C） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和 7 年 3 月 13 日発症、その後市内医療機関を受診し、喘息大発作が見られた、東区在住、7 歳、女児の検体（咽頭拭い液：3 月 14 日採取）から、かぜ症状、気管支炎、肺炎等呼吸器感染症を引き起こすことが知られている C 群ヒトライノウイルス（HRV-C） 及び乳幼児突発性発疹を起こすことが知られている ヒトヘルペスウイルス 7 型（HHV-7） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和 7 年 3 月 11 日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎（急性小脳失調症疑い）と診断された、熱田区在住、2 歳、女児の検体（便：3 月 18 日採取）から、乳幼児を含む小児に下痢や嘔吐の症状がはげしい急性胃腸炎を引き起こすことが知られている A 群ロタウイルス血清型 G3 (RV-A G3) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和 7 年 4 月 2 日発症、その後市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、市外在住、40 歳、男性の検体（結膜ぬぐい液：4 月 3 日採取）から、流行性角結膜炎を起こすことが知られているアデノウイルスの一つである アデノウイルス 8 型（AdV-8） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 令和 7 年 4 月 2 日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、港区在住、13 歳、男児の検体（便：4 月 3 日採取）から、乳幼児突発性発疹を起こすことが知られている ヒトヘルペスウイルス 7 型（HHV-7） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
6. 令和 7 年 3 月 29 日発症、その後市内医療機関を受診し、乳児嘔吐下痢症と診断された、天白区在住、0 歳 10 ヶ月、男児の検体（便：4 月 1 日採取）から、ヒトに激しい下痢や嘔吐症状を示すことが知られている ノロウイルス GII 型（NV GII） を遺伝子検査法により検出・同定しました。

7. 令和7年3月31日発症、その後市内医療機関を受診し、頸部リンパ節炎と診断された、千種区在住、2歳、男児の検体（咽頭ぬぐい液：4月8日採取）から、急性の熱性咽頭炎（主に小児）や咽頭結膜熱を引き起こす可能性のあるヒトアデノウイルス2型（hAdV-2）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
8. 令和7年4月6日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、港区在住、13歳、男児の検体（便：採取日不明）から、かぜ症状、気管支炎、肺炎等呼吸器感染症を引き起こすことが知られている C群ヒトラノウイルス（HRV-C） 及びヒトに激しい下痢や嘔吐症状を示すことが知られている ノロウイルス GII 型（NV GII） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
9. 令和7年4月7日発症、その後市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、市外在住、25歳、男性の検体（結膜ぬぐい液：4月9日採取）から、流行性角結膜炎を起こすことが知られているアデノウイルスの一つである アデノウイルス37型（AdV-37） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
10. 令和7年4月8日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、港区在住、9歳、女児の検体（咽頭ぬぐい液：採取日不明）から、乳幼児突発性発疹を起こすことが知られている ヒトヘルペスウイルス7型（HHV-7） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
11. 令和7年4月7日発症、その後市内医療機関を受診し、突発性発疹・急性小脳失調症疑いと診断された、名東区在住、1歳、男児の検体（便：4月11日採取）から、嘔吐下痢症を起こすことが知られているエンテリック（腸管系）アデノウイルスの一つである アデノウイルス41型（AdV-41） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
12. 令和7年4月11日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、昭和区在住、2歳、男児の検体（便：4月12日採取）から、ヒトに激しい下痢や嘔吐症状を示すことが知られている ノロウイルス GII 型（NV GII） を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出・同定、分離・同定については、
名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和7年 第14週～第17週（3月31日～4月27日）

	*ARI小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (医療機関)													眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)							合 計
	インフル ンザ等 （鳥インフル ンザ及び新 型インフル ンザを除く）	※ 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 呼 吸 器 感 染 症 ※	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性 髄膜炎 （インフル ンザ菌、髄 膜炎菌、肺 炎球菌を 原因として 特定され た場合を除 く）	無 菌 性 髄 膜炎	マイ コ プラ ズ マ 肺 炎	クラミ ジ ア 肺 炎 （オウ ム 病 を除く）	感 染 性 胃 腸 炎 （病原 体がロタ ウイルス であるも のに限 る）	イン フル エン ザ に よ る 入 院 患 者	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 ※	
千種	8	36	1	1	11	96	14	0	4	0	0	0	415	0	3								589
東	11	28	1	1	6	2	2	0	1	0	1	0	461										514
北	25	36	2	2	0	31	0	0	2	0	0	0	592	0	0	0	0	0	0	0	0	8	698
西	13	46	17	4	15	143	4	0	30	8	3	2	2,039	0	0								2324
中村	30	53	18	0	3	54	0	0	0	0	0	0	387	0	0								545
中	4	20	6	0	2	36	1	0	4	0	0	0	523										596
昭和	9	46	1	0	1	18	0	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	2	0	3	2	20	182
瑞穂	2	26	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	0								81
熱田	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	123	0	0								141
中川	9	69	6	14	10	66	1	2	4	1	3	0	908			0	0	1	0	4	0	15	1113
港	8	25	0	2	8	31	1	0	0	0	0	2	284										361
南	5	64	9	0	0	22	0	0	1	1	0	0	639	0	0								741
守山	20	21	0	0	5	50	3	0	3	1	0	1	511										615
緑	10	35	2	0	11	132	2	0	10	5	0	2	512	0	0								721
名東	12	24	12	2	35	58	3	0	6	1	0	0	911	0	2								1066
天白	5	6	0	1	1	16	0	0	0	1	0	0	147	0	1								178
合計	173	551	76	27	108	755	31	2	65	18	7	7	8,584	0	6	0	0	3	0	7	2	43	10,465
前月	270	1,079	219	62	185	1,421	13	2	64	30	0	4	－	0	12	1	0	9	0	6	1	52	3,430
前月比	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
昨年同月	396	1,136	288	77	559	563	11	14	1	27	2	8	－	1	9	2	1	10	0	0	5	42	3,152

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

* 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数に変更されました。4月6日までは70定点、4月7日からは50定点

※ 4月7日（第15週）からの数を計上しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和7年 4月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感 染器 症ク ラミ ジ ア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染ス 症	尖 圭 コン ジ ロー マ	淋 菌 感 染 症	感黄メ 染色チ 症ブシ ドリン 球耐 菌性	肺ペ 炎ニ 球シ 菌リ 感 染 症 耐 性	緑葉 膿剤 菌耐 感 性 感 染 症	
千種	3	0	0	1				4
東								
北	23	7	5	9	0	0	0	44
西	0	1	0	0				1
中村	3	1	2	2				8
中	49	43	26	17				135
昭和	7	5	5	8	4	0	0	29
瑞穂	1	1	0	1				3
熱田								
中川	10	4	5	4	6	0	0	29
港								
南	2	2	0	0				4
守山	0	1	0	0				1
緑	16	2	1	6				25
名東	0	0	0	0				0
天白	7	2	1	7				17
合計	121	69	45	55	10	0	0	300
前月	95	70	44	39	11	0	0	259
前月比	1.27	0.99	1.02	1.41	0.91	-	-	1.16
昨年同月	116	58	40	55	4	1	0	274

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

性感染症定点の異動 港区 → 守山区

4月分患者報告数	
週報分	10,465
月報分	300
合 計	10,765

令和7年 4 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和7年 4 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	2 (1)	11 (4)	52 (15)	62 (13)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	1	2 (1)
	合 計	2 (1)	11 (4)	53 (15)	64 (14)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和7年 4 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
O157	-	5	31 (6)	48 (6)
O26	-	-	5 (3)	4
O103	1 (1)	1 (1)	5 (1)	-
O111	-	1	2	-
O165	-	-	1	-
その他	-	-	2 (1)	1 (1)
型 不 明	1	4 (3)	6 (4)	9 (6)
合 計	2 (1)	11 (4)	52 (15)	62 (13)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

4月

保健セン ター名	令和7年4月（※）			令和7年計（※）			令和6年計（※）			令和5年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	2	1	0	5	1	0	19	7	2	21	10	5
東	1	1	1	4	2	1	10	6	2	4	1	6
北	2	1	0	6	3	0	21	9	6	18	8	14
西	0	0	0	4	0	0	8	3	10	12	5	11
中村	0	0	0	4	0	3	22	3	7	21	4	10
中	0	0	2	2	1	3	16	7	6	21	9	12
昭和	2	1	1	5	1	2	19	5	2	13	2	6
瑞穂	1	0	0	2	1	0	8	2	2	8	2	3
熱田	0	0	0	1	0	1	10	2	3	3	1	4
中川	1	0	1	8	3	2	26	13	20	31	8	20
港	3	0	1	7	1	2	20	5	7	23	5	10
南	2	1	0	5	3	0	16	5	9	18	7	12
守山	1	0	0	5	0	0	26	11	5	21	12	11
緑	2	0	1	8	0	2	20	6	9	19	5	18
名東	3	2	0	3	2	0	10	4	4	10	4	7
天白	0	0	0	0	0	0	13	4	5	19	8	5
全市	20	7	7	69	18	16	264	92	99	262	91	154

※ 令和6・7年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年4月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	2		3	4	5
A型肝炎	－		－	1	1
エムボックス	－		－	1	3
ジカウイルス感染症	－		－	3	－
チクングニア熱	－		1	1	－
つつが虫病	－		－	1	1
デング熱	－		－	4	6
日本紅斑熱	－		－	3	1
マラリア	－		－	1	1
レジオネラ症	4		12	48	32
レプトスピラ症	－		－	－	1
合 計	6		16	67	51

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

疾 病 名	令和7年4月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	－		3	20	13
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	1	B型： 1 － －	B型： 2 － －	－ － その他： 1	B型： 2 － その他： 3
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1		9	65	53
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－		－	1	－
急性脳炎*	1		1	15	17
クロイツフェルト・ヤコブ病	－		－	－	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		11	46	22
後天性免疫不全症候群	2	無症候性キャリア： 1 AIDS： 1 －	無症候性キャリア： 5 AIDS： 2 その他： 2	無症候性キャリア： 39 AIDS： 17 その他： 1	無症候性キャリア： 55 AIDS： 20 －
ジアルジア症	－		－	1	－
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		13	16	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	－		2	－	1
侵襲性肺炎球菌感染症	6		44	82	54
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	－		5	9	8
梅毒	51	早期顕症梅毒： 30 晩期顕症梅毒： 2 － 無症候梅毒： 19	早期顕症梅毒： 111 晩期顕症梅毒： 2 － 無症候梅毒： 60	早期顕症梅毒： 315 晩期顕症梅毒： 9 － 無症候梅毒： 143	早期顕症梅毒： 333 晩期顕症梅毒： 4 先天梅毒： 5 無症候梅毒： 126
播種性クリプトコックス症	1		1	1	1
破傷風	－		－	－	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－		－	1	－
百日咳	68		100	35	16
麻しん	1		2	2	－
薬剤耐性アシネトバクター感染症	－		1	－	－
合 計	136		376	819	751

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：26 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 7 年 4 月 30 日時点）